

# 国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所  
〒259-1293 平塚市土屋 2946  
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス  
Tel. 0463-59-4111 (内線 2200)

## 年頭の所感

照屋行雄

新年明けましておめでとうございます。2007年が世界の人々にとって平和と繁栄の年となりますよう祈っております。また、所員並びに関係者の皆様にとって健康で幸福な1年となりますよう願っております。

さて、国際経営研究所は、昨年1年間、多くの事業活動を展開しました。プロジェクトチームによる共同研究や奨励研究の遂行、国際経営フォーラムや公開講演会の開催、経営学部インターゼミナールの開催、各種セミナー・フォーラム・講演会の主催・共催、「プロジェクト・ペーパー・シリーズ」の公表、『国際経営フォーラム』・『ティーチングスタッフによる国際経営用語500選』の発行など多くの事業に積極的に取り組みました。

今年は、この成果を踏まえて、経常的な事業活動を計画的・組織的に推進するとともに、当研究所に対する学内外の役割期待に応じて、新規事業についても意欲的に取り組みたいと考えております。

国際経営研究所が果たさなければならない役割は、大きく3点です。すなわち、その第1は国際経営に関する学際的共同研究の推進、その第2は国際経営に関する研究成果の公表と国際経営教育の支援、その第3は地域・国際間の学術研究交流の促進にあります。

第1の共同研究の推進ですが、共同研究が効率的に運営され、期待される成果を達成するためには、選定した研究テーマの適切性や斬新性はもとより、学内外のスタッフによる研究体制を組織し、コーディネートするプロ

ジェクト・リーダーの役割が極めて大きいといえます。今後の当研究所の活発な共同研究と高い評価の期待できる研究成果を確保するためには、1人でも多くの優れたプロジェクト・リーダーを輩出することが強く求められています。

第2の成果公表と教育支援については、今後も、当研究所スタッフの年間の研究成果を掲載する『国際経営フォーラム』誌の発行と、共同研究プロジェクトの研究成果をまとめた「プロジェクト・ペーパー・シリーズ」の公表を継続することになります。また、内外の関係者から高く評価されている『ティーチングスタッフによる国際経営用語500選』の改訂版を発行し、国際経営を学ぶ学生諸君の学修支援に供することとします。

第3の学術研究交流の促進については、これまでの研究交流の成果を踏まえ、特に韓国や中国などアジア諸国の大学・研究機関等との交流を推進することに重点をおきたいと考えています。具体的には、まず韓国釜山市の東西大学校「アジア研究センター」(張済国所長)との共催で、新年度に国際経営シンポジウムを開催することとしています。

最後に、国際経営研究所の各種の事業活動は、多様な領域で活躍する多彩なスタッフの意欲的で創造的な研究・教育活動に支えられています。常任委員、研究所員、客員研究員および事務局スタッフの一層のご協力・ご貢献をお願いする次第です。

同時に、学内外の関係者の皆様のご支援をお願いしたいと思います。

(所長/てるや・ゆきお)

**第2回経営学部インターゼミナール大会**

去る11月15日の13時から湘南ひらつかキャンパス(SHC)において、国際経営研究所の主催による第2回経営学部インターゼミナール大会が開催されました。このインゼミ大会では、テーマによって学術研究部門(経営・会計・国際の3分科会)と新規事業部門に分かれ、6会場を使用して専門ゼミごとの研究グループによる発表と討論が行なわれました。

今回は15ゼミから41グループがエントリーし、3年次を中心に全体で250名ほどの学生が参加して、長時間にわたり熱心に議論しました。発表のテーマは、国際経営学科で学修する問題領域を反映して、実に多彩な内容となっています。学生諸君は夏季休暇中のゼミ合宿から、Iグループ平均5~6名のメンバーで研究発表の準備に入り、ゼミ担当教員の指導・助言を得ながら自主的・計画的に成果を積み上げてきました。昨年度の第1回大会に優る質の高い成果の発表と熱心な討議が行なわれました。

研究発表後、情報交換会場において審査結果の公表と表彰式が行なわれ、最優秀賞4本、優秀賞および奨励賞各6本について表彰状の授与と副賞の贈呈が行なわれました。最優秀賞および優秀賞の受賞グループと発表テーマは、次のとおりです。

**最優秀賞**

経営部門 秋山 諒他(アサモアゼミ)

「スーパーレジ袋革命」

会計部門 野口 恵他(照屋ゼミ)

「期間損益計算の構造」

国際部門 島田加菜子他(アサモアゼミ)

「家具屋秘めたり」

新規事業 辻 陽子他(田中ゼミ)

「シニアカフェを開く」

**優秀賞**

経営部門A 秋澤一哉他(田中ゼミ)

「Next is 『CHINA+One』」

経営部門B 渡辺宏記他(榊原ゼミ)

「町工場からの飛躍」

会計部門 田畠光剛他(関口ゼミ)

「金融商品会計について」

国際部門A 加藤千晴他(泉水ゼミ)

「世界遺産が沖縄にもたらす影響」

国際部門B 合田直紀他(泉水ゼミ)

「沖縄・歴史問題」

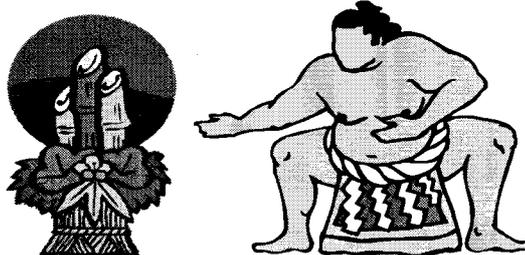
新規事業 櫻庭亜紀他(榊原ゼミ)

「空間にゆとりと潤いを」

**日本相撲協会高砂親方が講演**

当研究所では、昨年12月14日(木)に61号館205教室において、歴史・文化部門の公開講演会「国技大相撲の精神と様式—日本の歴史と伝統を考える—」を開催しました。講師には、日本相撲協会の高砂親方(元大関朝潮関)をお迎えし、①国技大相撲の歴史と伝統、②大相撲の精神と様式美、③協会の事業活動と法人運営、④力士の今昔気質と育成方針、⑤国際化の進展と協会の対応、および⑥大相撲ファン開拓と展望等についてスピーチをしていただきました。

当日の講演には、スポーツ経営論や制度会計論などの受講生など多数の学内関係者が出席し、スクリーンでの取組みビデオの鑑賞と解説を交えた熱心な講演に耳を傾けました。講演で高砂親方は、相撲というスポーツのみならず、人生における目標の設定とその実現に向けての取組み姿勢について、ご自身の半生にわたる懸命な努力と苦い経験を蒸留し、将来に生きる学生諸君に対して多くの示唆を与え激励しました。



## 私の研究環境

太田正孝

経営学部という文系の学部で、理系の研究テーマに日々どのように取り組んでいるのか、その一端をご紹介させていただきます。

最近では IP 電話を知らない人はいないと思います。IP 電話の魅力はなんと言ってもその料金の安さにあります。同一のプロバイダ内であれば無料で電話がかけられます。更には映像も使ったテレビ電話もすでに実用化されています。このため、100年以上の歴史を持つ従来の固定電話サービスは、近い将来インターネットに統合されようとしています。

IP 電話が固定電話に代わってライフラインとなるためには、いついかなるときでも消防・警察・病院などへの緊急電話に対応できるという高信頼性が求められます。ライフラインとなるためには、まだまだ多くの問題を抱えています。IP 電話がつながり難くなる現象が発生し、最近でも新聞で取り上げられています。インターネット内部の一時的な混雑が一つの原因と考えられます。しかしながら、はっきりとした原因がつかめていないのが現状です。インターネットの特質上、データがどのような経路で運ばれてくるのか特定しにくいというのが、原因究明を困難にしている要因の一つとされています。

私は、このような IP 電話を研究テーマとしております。つまり、どのような原因でつながり難くなるのかを究明し、その方策を見出すということです。これ以上説明すると少々専門的になるので、研究環境について話したいと思えます。原因究明のために、コンピュータ上に仮想的にインターネットを作り上げ、そこでいろいろな状況を作り出し、つながり難くなる原因をつきとめようとするものです。このような手法をシミュレーションと言います。従って、研究環境として最低限必要なものは、コンピュータ

(パソコン) とシミュレーションを行うためのソフトウェアということになります。

シミュレーションソフトは通常極めて高価です。この分野で現在最もポピュラーなものは OPENET というソフトで、1 ライセンス 500 万円以上します。到底、現状の予算では買える金額ではありません。そこでいろいろ調べていたところある先生から、Network Simulator (ns-2) とソフトがあることを伺いました。これは、米国の VINT (Virtual InterNet Testbed) というプロジェクトが開発したもので、無償で公開されています。また、このソフトを動かすためには LINUX という OS (Operating System) が必要ですが、これも無償で公開されています。

ということで、何とか研究環境を整えることができました。現在、研究に着手してから3年近く経過し、その成果もでてきております。

## 研究余滴

ns-2 は C++ というプログラミング言語で書かれており、ns-2 を使うためにはこのソフトを解読する必要があります。本来の研究目的はインターネット内部の挙動を明らかにすることですが、この研究の面白さは、このソフトの解読にもあります。解読できたときは、パズルや推理小説の謎解きと同じような快感が得られます。最近、ロールプレイングゲームにも熱中しておりますが、下手なゲームよりもこの謎解き (ソフト解読) は面白いのです。また、ソフトウェアの作りの巧妙さにも感心させられます。

以上のように、ほとんど無償ソフトを使って研究を遂行しているという、少々みみっちい話をしてしまいました。無償で質の高いソフトを利用可能にしているのがインターネットです。インターネットの偉大さに改めて感心させられます。

( 所員 / おおた・まさたか )

### セミナー・フォーラムの開催結果

当研究所では、今年度後半に入って次のようなセミナー・フォーラムを開催しました。

#### ① SME研究センター・研究発表討論会

当研究所SME研究センターでは、今年の10月14日(土)と11月25日(土)の両日、本学KUポートスクエア(横浜みなとみらい)において、産官学連携推進室の協力、神奈川大学フロンティアクラブとの共催で、研究発表討論会「中小企業の経営環境と経営革新」を開催しました。田中則仁教授(常任委員)のコーディネートにより、当研究所の客員研究員を始め4名の新進気鋭の研究者が講師を務めました。本学卒業生の企業人を中心に参加者による熱心な討論が行なわれました。

#### ② 公認会計士制度公開セミナー

昨年10月19日(木)に67号館210教室において、公認会計士制度公開セミナーが開催されました。同セミナーは、日本公認会計士協会東京会の後援を得て、公認会計士の先生方が講師を務めました。「制度会計論」の受講生を始め100名以上の学生・院生諸君が聴講しました。

#### ③ 中小企業会計啓発・普及セミナー

昨年10月27日(金)に平塚商工会議所第2会議室において、2006年度中小企業会計啓発・普及セミナーが開催されました。同セミナーは、平塚商工会議所並びに(独)中小企業基盤整備機構との共催で、当研究所所長の照屋行雄教授が講師を務めました。中小企業の経営者、税理士、学生など約60名が熱心に受講しました。

#### ④ 市民フォーラム

昨年11月18日(土)に平塚市教育会館第3会議室において、平塚WINE研究会主催、当研究所協催で第2回市民フォーラム「わが街を超えて—異なりとの出会い—」が開催さ

れました。多くの市民、企業人、学生などが参加し、大蔵律子平塚市長や浅海典子本学助教授などをディスカッサントに迎え、当研究所の照屋行雄所長がモデレーター(座長)となって活発な討論が行なわれました。

#### ⑤ STS研究センター・フォーラム

昨年12月16日(土)に平塚市ひらつかスカイプラザ第一会議室において、STSフォーラム「劣化ウラン弾—実態と情報操作」が開催されました。講師に藤田祐幸氏(慶応大学)および振津かつみ氏(医師)を迎え、常石敬一教授のコーディネートにより、約30名の参加を得て有意義なフォーラムとなりました。

### 『国際経営フォーラム』No.18の原稿募集

当研究所の機関誌『国際経営フォーラム』のNo.18(2007年6月1日発行予定)の原稿を募集します。

掲載原稿については、共同研究の成果、研究論文、研究ノート、教育ノートなど日頃の調査・研究の成果をおまとめください。今回の特集は、「組織とリーダーシップ」を予定しております。

なお、今年度共同研究プロジェクトの代表の先生には、プロジェクトの研究状況または研究成果についてのご報告を、2,000字程度でお願いいたします。

原稿募集の要項は、次のとおりです。

- 1) 原稿 24,000字以内(図表含む)。
- 2) 体裁 A4・横書き。欧文タイトルも。
- 3) 提出 ハードコピーとFD。
- 4) 期限 2007年3月20日(火)必着。
- 5) 場所 当研究所事務局(61-247)。

詳細については、事務局(内線2200)にお問い合わせください。原稿執筆について、研究所員並びに関係者の皆様のご協力をお願い致します。